



人はたがやす 水牛はたがやす 稲は音もなく育つ

- ひとりうた語り
絵とき唄ときバナナ植民地 戸島美喜夫 2
- 楽譜
バナナソング ホセのバラード 11
- 祖国 12
- フィリピンの食糧と飢え 13
- トラウイカ学園案内 17
- 漫画家・リウスの学校 山崎満喜子 18
- 人民の歌を 前田俊彦 23
- 申し入れ書 三里塚芝山連合空港反対同盟 24
- 獄中から 26

ひとりうた語り

絵とき唄ときバナナ食民地

作詞 戸島 美喜夫
作曲

バナナ・ソングのCMが会場に流れる。出演者たち客席で客にピラを配りながら登場。かれらは、大手のフルーツ商社の商標らしきものを描いたゼッケンをつけている。出演者たちがステージにあがると、バナナ・ソングのP・Aが切れる。と同時に「絵ときバナナ食民地」の絵がでてくる。出演者たちによるナマのバナナ・ソング。

バナナ・ソング

1 日はまた昇る南の島
そこは緑の風吹くミンダナオ

2 太陽がいつぱい南の島
そこは熱い風吹くミンダナオ
きょうもかがやく黄金の一房
太陽の贈りものフィリピン・バナナ
大地の恵みフィリピン・バナナ
いつでも安いフィリピン・バナナ

3 夕日がしずむ南の島

そこは夜露が夢みるミンダナオ
きょうもまどろむ黄金の一房
太陽の贈りものフィリピン・バナナ
大地の恵みフィリピン・バナナ
いつでもはつものフィリピン・バナナ
(リフレイン)

みなさんこんばんわ。きょうはみなさんにバナナの話をしにやってきました。

ひと昔前、われわれ日本人にとってバナナはたいへん高級な果物だったと思います。ところが、最近はこの八百屋でも山ほど売っているようになりました。むかしは八百屋さんなんかじゃなくて、フルーツ・パラーのようなところで、メロン、マンゴー、マスカット、パイヤ、パイナップル、オレンジ、レモン、グレープ・フルーツ、アブリコットなんかといっしょにセロファンでつつまれていて、ちよつとやそつとで口にできるシロモノではありませんでした。

ですが、最近では高級な果物のバナナというイメージはまったく払拭されてしまいまして、リンゴやミカンの出まわらない季節には、特に多く出まわる。だいたい一キロ二百円ぐらいといったところだ

と思います。かつての高級な果物が、今や庶民のフルーツ、庶民のバナナというふうになったわけですが、安いバナナの秘密は何か。それを、これからはじめる「絵とき唄ときバナナ食民地」でお話したいと思います。
(絵をさしながら)

これは先ほどお配りしたパンフレットに書いてあるイラストの一部です。
舞台はフィリピン。フィリピンはミンダナオ島。ミンダナオ島はバリオ・ブエンナヴィダというところ。ここにある大バナナ農園ではたらく農民ホセをご紹介します。

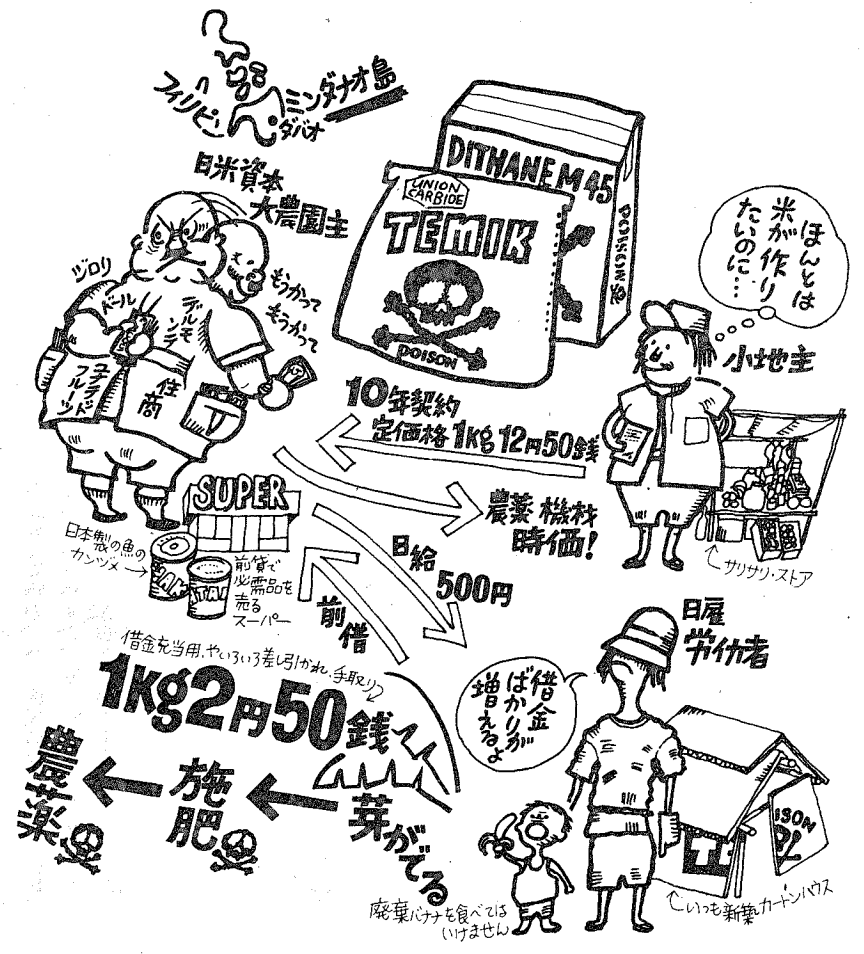
ホセのバラード

1 (A)五十年前のことだった
ホセはひとりやってきた
緑ゆたかなこの土地へ
緑ゆたかなこの土地へ

2 (A)ここはよい土地だった
ホセは住みつきたがやした
そして種まき苗植えた
そして種まき苗植えた

- 3(B) やがてホセは結婚した
毎日汗してはたらいて
三人の子どもをこしらえた
三人の子どもをこしらえた
- 4(A) ある日畑に出てみると
メデイナという男がやってきて
紙つきれ一枚つきつけた
紙つきれ一枚つきつけた
- 5(A) ホセは文字が読めなくて
役所に出かけてきてみて
紙つきれは権利書だった
紙つきれは権利書だった
- 6(B) 役人はホセにおしえてくれた
ここはお前の土地ではない
メデイナさんの土地なのだ
メデイナさんの土地なのだ
- 7(A) そんなバカなとホセはいう
メデイナのおっさん来る前に
おいらこの土地たがやしてた
おいらこの土地たがやしてた
- 8(A) 文句をいってもダメだった
何をいってもダメだった
紙つきれだけがモノだった
紙つきれだけがモノだった
- 9(B) 泣く泣くホセはあきらめた
それでもこの地にとどまって
地主メデイナの小作人になった
地主メデイナの小作人になった
- 10(A) 小作料は三分の二だった
ホセの取り分三分の一
一家五人の貧乏ぐらし
一家五人の貧乏ぐらし
- 11(A) 貧乏ぐらしはかわらなかつたが
それでも月日はすぎていった
イヤなあの日がくるまでは
イヤなあの日がくるまでは
- 12(B) 千九百と六十七年
忘れもしないあの日あの時
きれいなジープがやってきた
きれいなジープがやってきた

- 13(A) ふたりのアメリカ人がのつていた
国の役人ものつていた
そしてはじめてうまそうな話
そしてはじめてうまそうな話
- 14(A) かいバナナ農園つくりましょう
みんなここではたらくのです
ちゃんと給料はらいます
ちゃんと給料はらいます
- 15(B) だれもウンといわないのに
間もなくブルドーザーがやってきて
家も畑もこわしてしまった
家も畑もこわしてしまった
- 16(A) 弁護士やとう金はなし
バス代だつてあるわけない
訴えようにも訴えられない
訴えようにも訴えられない
- 17(B) 千九百と七十五年
あきらめきれない四人の農夫
これはおいらの土地だどがんばつた
これはおいらの土地だどがんばつた



18 (B) したら軍隊がやってきて
ウンもスンもあろうことか
たちまち四人を殺してしまつた
たちまち四人を殺してしまつた

(照明変わる)

19 (A) だれもさからえなくなつて

みんなとうとうあきらめた

ホセもすっかり年老いた

ホセもすっかり年老いた

声 殺虫剤使用上の注意。飲めば死ぬ危険あり。子ども、食品、飲料水に近づけないこと。使用の際は、かならずゴム手袋着用のこと。空き箱はただちに燃やすこと。その際、煙を吸ってはならない。

20 (B) バナナ農園大繁盛

ますます肥る外国商人

ますますやせるフィリピン農民

ますますやせるフィリピン農民

1 きょうも空からふつてくる

ドクロ・マークの殺虫剤

人畜無害といいながら

なぜあわてて逃げなざる

監督さんや親方さん

おれたちや畑で逃げられやしねえ

バナナの虫と心中かい

クスリが効いてバナナは育ち

おれたちやたちまち肺病やみ

2 バナナ洗いの水溜にも

たつぶり入つてる防腐剤

ゴム手袋はめたいが

手袋買う金ままならぬ

メデイナのダンナに土地をとられたときにや、ほんとにハラが立つた。それでも、今にくらべりや……なんていうか、月とスッポンだ。小作人やつてたときのほうが、ずっとマシだつた……。

最近はどうにも体の調子がわるくてなあ。こりやあもうじきはたらけんくなるだ。

わしんとこの息子たちはたらいとるが、いつくら若いつちゅつたつて、毎日薬つかう仕事だもんなあ、あましよくねえとおもうな。きついでないんだ……

監督さんや親方さん

この手のヒビわれどうしたらいい

バナナの虫と心中かい

クスリが効いてバナナはきれい

両手はますますヒビわれる

3 きょうも地面にくまなく

農薬まく仕事

危険手当はもらつても

からだはどんどん悪くなる

監督さんや親方さん

この目まいをどうしたらいい

バナナの虫と心中かい

クスリが効いてバナナは実り

おれたちやいつしか虫の息

今や魚も野菜も食わねえから、力つかねえんだな。体が、こう、なんか、だるくてな。やつぱら栄養が足りねえんだな。仕事ねえときや、ハラへらねえようにじつとしてるんだね……

生活のうた

1 仕事おわつて帰るのは

バンク・ハウスというところ

二十四人がスシ詰め

そのうえ寝床は三段ベッド

このベッドの最上段は

暑さにやけた屋根のすぐ下

ここで食つてここで寝る

汗のおいのバンク・ハウス

2 かせいだ日ゼニで買物するのは

サリサリ・ストアというところ

農園直営の売店で

カン詰やコーラがおいてある

メイド・イン・アメリカとメイド・イン・ジャパン

生の魚や野菜はない

値段は市価の五割高

もうけつばなしのサリサリ・ストア

きょうさんバナナがでkindだ。あんまりきょうさんでできるもんでな、もつたいねえはなしたが、またきょうさん捨てちまうだよ。川ん中に捨てちやうだろう。そいつがつかえちやつて、雨がくるとすぐ洪水になつちまうだよ。そんだけなら、まだええんだ。農薬がきょうさん入つとるでね、水がみんな毒水になつちまうだ。魚もエビも貝もみんな死んじやうわなあ。だもんで、近ごろはぜんぜんそういうもの食わねえや。むかしはそういうもん食つてたんだ。

3 港湾労働する人は

カートン・ハウスに住んでいる
いらなくなつたダンボール箱
あつめてつくつた小さな家
風が吹けばとんでしまふ
雨がふればながれてしまふ
つくるのはかんたんな
いつでも新築カートン・ハウス

みんなつれえだよ。ガキは栄養失調なもんだから、すぐに病氣になつちゃう。医者にかかるぜニなんてあるわけねえし……。一回みてもらうのに百ペソなんだ。百ペソっていうと、だいたい三千円。朝つから晩まではたらいで、一日の日給がやつと四百五十円くらいだな。それからサリサリ・ストアのツケをひかれるで、二百円くらいしか残んねえな。これで一家五人くらさなきやなんねえ。にしても、あん人たちや、なんであんな豪勢なんかのう。いくらくらいもろうとらんかのう。

(照明変わる)

声 フィリピンへの投資、七つの利点。フィリピン政府

- 一、治安がよく保たれている。
- 二、もうけを本国にもちかえることができる

三、多国籍企業には、さまざまな許可証、手数料、税金が免除される

四、労働力が安い

五、労働争議の調停や仲裁が簡単で、ストライキもロック・アウトもない

六、休日労働や、女子どもの労働への制限がない

七、天然資源の利用もおおいによるしい

海を渡れば十六倍

1 バナナづくりには土地がある
そのことならば心配ご無用
役所や地主をくどけばはやく
外国企業のためならば
畑も田んぼも惜しみはしない
土地はバナナと金を生む
手間ヒマひいてももうけはばるい
海を渡れば十六倍 海を渡れば十六倍

2 バナナづくりには時間がかかる

そのことならば心配ご無用
肥料農薬使えばはやく
生産能率のためならば

薬品汚染ためらうことはない

農薬はバナナと金を生む

手間ヒマひいてももうけはばるい

海を渡れば十六倍 海を渡れば十六倍

3 バナナづくりには人がいる

そのことならば心配ご無用

女子どもを使えばはやく

低賃金のためならば

日雇い臨時雇い思うがまま

人はバナナと金を生む

手間ヒマひいてももうけはばるい

海を渡れば十六倍 海を渡れば十六倍

じゃねえけ。わしは、せがれに米のつくりかたひとつ教えてやれなんだ。水牛のあつかいかたひとつ教えてやれなんだ。わしらの国はどこへ行つちまつたさい。

もうひとつのバナナ・ソング

1 飢えてひもじい南の島
それは田んぼなくしたミンダナオ
きょうこそめざめよ母なる祖国よ
搾取のたまものフィリピン・バナナ
農薬づけのフィリピン・バナナ
人を喰うフィリピン・バナナ
(リフレイン)

こわいぞこわいぞ怪物バナナ
怪物バナナは人まで喰うぞ

2 農薬いっぱい南の島

それは自然なくしたミンダナオ
きょうこそ知ろう母なる祖国よ
搾取のたまものフィリピン・バナナ
農薬づけのフィリピン・バナナ
土地を喰うフィリピン・バナナ
(リフレイン)

声 アジア太平洋資料センターの資料によると、一九七五年、外国企業はバナナだけで、すくなく見積つてもおよそ百億円の利益を計上した。同じ年、バナナ労働者二万五千人の年間所得は、全部あわせてもその十パーセント、つまり十億円弱、一人あたり年間四万円にすぎなかった。

わしらの国はどこへ行つちまつたさい。貧乏人のわしらが、なんでも金持ちの外国人に自分たちの土地をくれてやんなきやなんねえだ。反対みてえじゃねえか。あんひとたちこそわしらくれていいはず

バナナ・ソング

作詞 戸島美喜夫
作曲

1 日はまたのぼる - みなみのしま - せごは
みどりのかせ吹く ミンダナオ ほうもめざめる しがなのひとふさ
たい地のの おくりもの フリピン バナナ
だいの地め-く-み
いつでも美しい フリピンバナナ - チキチキポナンバ バナバナモンテ
バナバナドルドル ドルドルキータ

ホセのバラード

作詞 戸島美喜夫
作曲

A 1, 2, 4, 5, 7, 8, 10, 11, 13, 14, 16, 20
1. 五 じゅうねん まえの ことな た ホセはひとりで やってきた
2. こごは よい 土地な た ホセは住みつきた がやした
みどり ゆた-か-な この 土地へ みどり ゆた-か-な この-土地へ
せして たね-ま-き なえ うえた そして たね-ま-き なえ-うえた
B 3, 6, 9, 12, 15, 17, 18, 19
3. やがて ホセは 結婚した まいにち あせして はたらいて
さん にんの こども を こしらえた さん にんの こども を こしらえた
アクセントやイントネーションにより臨時リズムやメロディをかける

3

プランテーションの南の島
それは自由をなくしたミンダナオ
きょうこそ生かそう母なる祖国よ
搾取のたまものフィリピン・バナナ
農業づけのフィリピン・バナナ
祖国を喰うフィリピン・バナナ
(リフレイン)

出演者つけていたゼッケンをむしりとり

最後にフィリピンの民衆のあいだで広くうたわれている、解放と自由をうたった歌をうたいます。アン・バヤン・コという歌です。これはタガログ語でわが祖国という意味です。

アン・バヤン・コ わが祖国

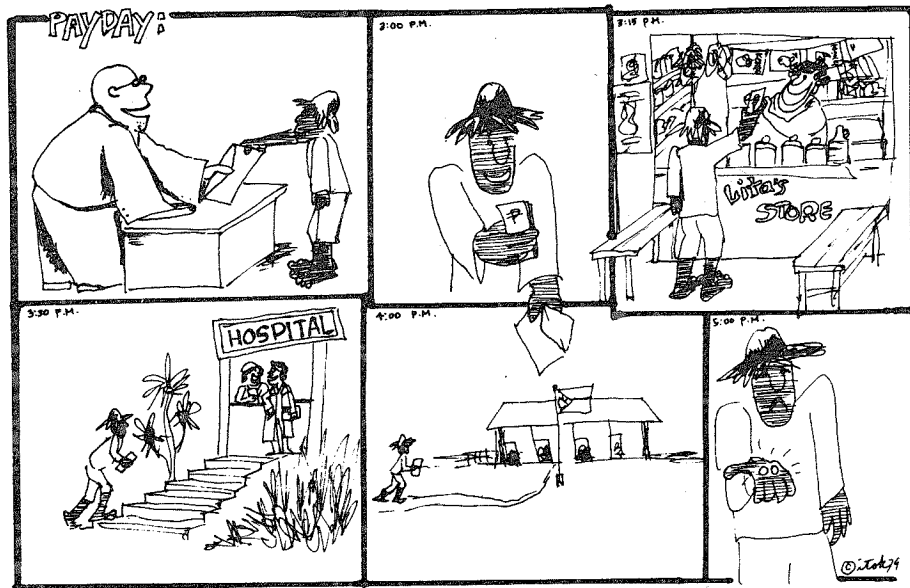
わが祖国フィリピンよ
こがねと花の園
やさしい人のこころ
うつくしくかがやく
だが異国の船がこの平和おかして
祖国を奴隷の苦しみにつなぐ

「コンサートこの時この唄」のプログラム
をお頒けします
ひとりうた語り「絵とき唄とき・バナナ
食民地」の全曲の楽譜と歌が載っています
バナナ・ソング
ホセのバラード
農業ソング
生活のうた
海を渡れば16倍
もうひとつのバナナ・ソング
祖国 Ang Bayan Ko

送料共1部300円です 切手300円分をお
送り下さい お申し込みは下記へ
名古屋市千種区田代町瓶木1-73
ドミール東山 303
グループレム
052-782-3365
「コンサートこの時この唄」はカセットで
販売する予定です 御期待下さい

かごの鳥も自由求めてはばたく
とらわれの祖国も解放をもとめる
フィリピンよ
涙と悲しみの国よ
解放の日を待ちのぞむ
祖国に生きるこのつらさよ
外国のため奴隷にされて
苦しむ国よ
たたかいに立て
東に自由の夜あけがくる

フィリピンの食糧と飢え



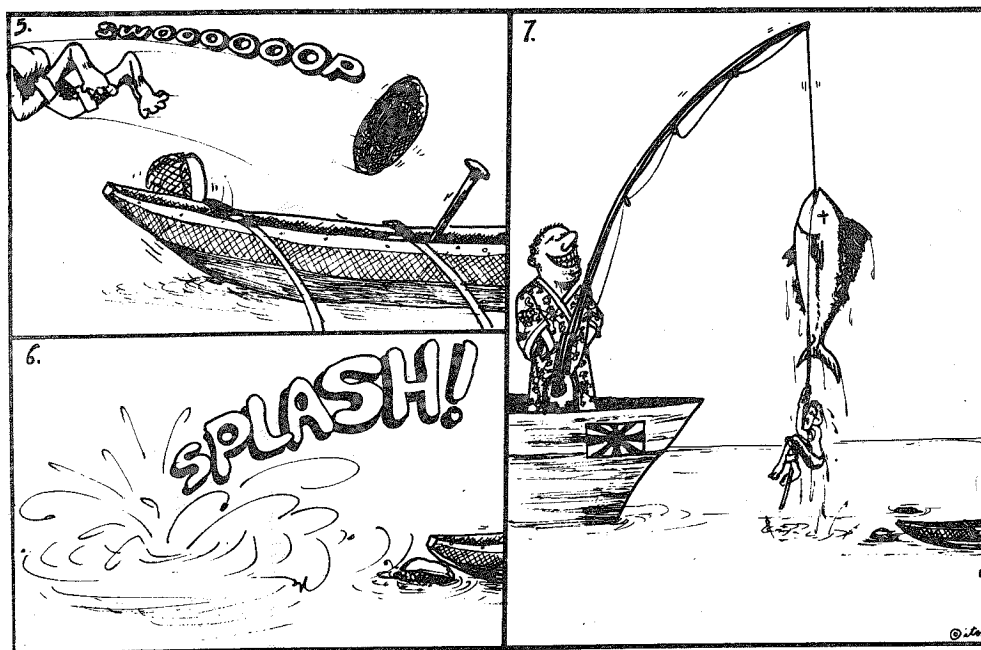
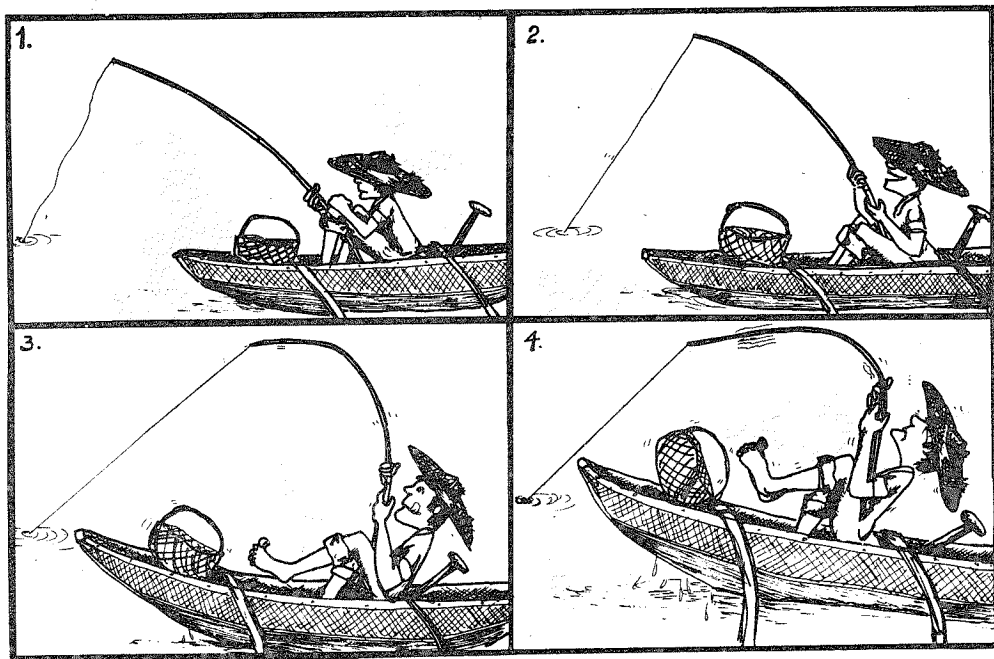
これは「フィリピンの食糧と飢え」というメソジスト教会のパンフレットからとった。フィリピン人の90%につきまとう飢えの問題をあつかう教会の社会教育の教材だ。日給十二ペソの労働者がどんな食物を買えるか。ニキロのコメ、魚の干物五匹、砂糖ひとかけ、塩ひとつまみ。ゆたかな自然を相手に、いくらばたらいても、つくったものが口にはいらぬのはなぜか。社会のしくみが、絵で印象づけられ、説明のことはすくなく、よくまとまっている。このパンフレットは全国用に英語をつかっているが、各地域ではそれを、そのことばになおしてつかう。

Ang Bayan Ko 祖国

Ang bayan kong Pi-li-pi-nas Lu-pa-in ng gin-to't bu-lak-lak Pag-i-big ang sa-ka-nyang pa-lad Nag-a-lay ng gan-dat di-lag At sa kas-ang yu-mi at gan-da Da-yu-han ay na-ha-li-na Bayan ko, bi-ni-hag ka Na sad-lak sa du-sa I bon mang may la-yang lu-mi-pad ku-lungin mo at pu-mi-pig-las Ba-yan pa kas-ang sa-ka-dal di-lag Ang di-mag na sang ma-ka-al-pas Pi-li-pi-nas kong mi-nu-mut-ya Pag ad ng lu-ha ko't da-li-ta A-king ad-hi-ka Ma-ri-ta kang sa-ka-dal La-ya! Kay hi-rap ma-bu-hay Sa sa-ri-ling ba-yan Kung i-ka'y a-li-pin Ng mga da-yu-han Ang ba-yan si-ni-si-il Babangon la-la-ban din Ang si-langa'y pu-pu-la Sa-ti-myas ng pag-la-ya!

この歌は1896年のフィリピン革命当時、ホセ・コラソン・デ・ヘススによってかかれ、その後アメリカ帝国主義への抵抗の歌としてうたいつがれてきた。

「祖国に生きるこのつらさよ」以下は、別な歌「愛する祖国」の後半にあたる。これはホセ・リサルの詩にもとづいている。



フィリピンでの意識化プログラムのなかでマンガの役割はおおきい。以前は教育は英語でおこなわれた。いまは小学校の最初の二年間は、地域のこゝとば、三年生からは国語としてのタガログ、四年生から英語がそれにくわわる。そのあたりで学校をやめてしまう子どもがおおい。十歳にもなれば、一人前の労働力だ。これでは新聞さえよめるようにはならない。なぜ生活がくるしいのか。かんがえようにも、かんがえることばがうばわれている。

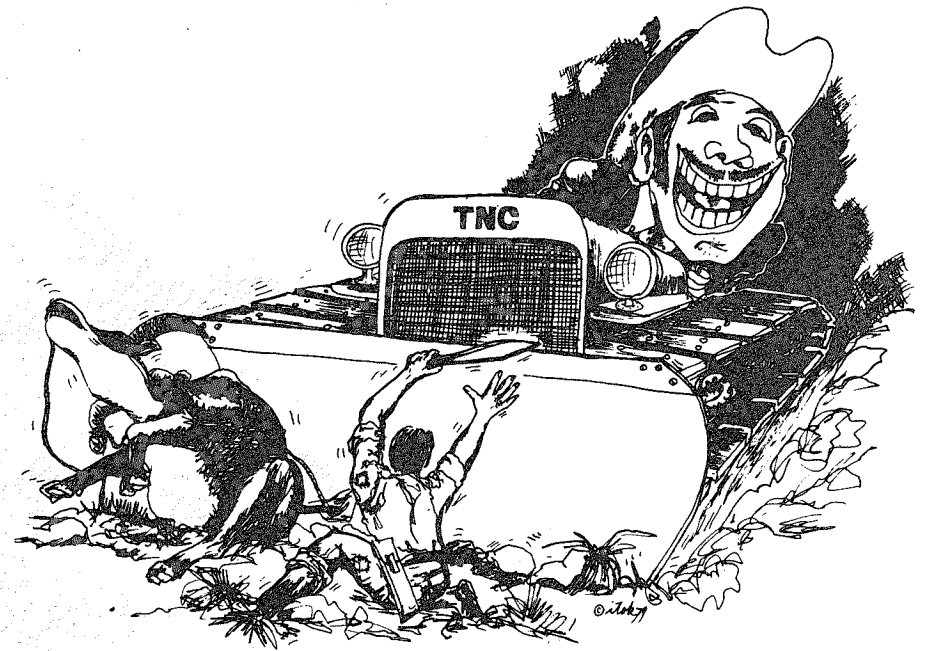
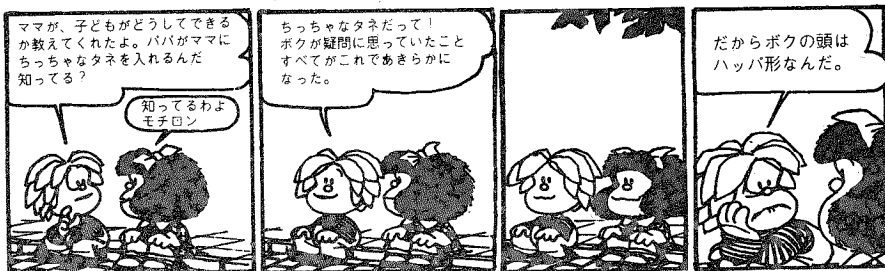
おおきな船で漁民の魚をうばってゆく日本人の絵は、フィリピン人のおもいえがく日本人の典型的なすがたらしい。朝日の旗も、まだわすれられていない。

トラウイカ学園案内

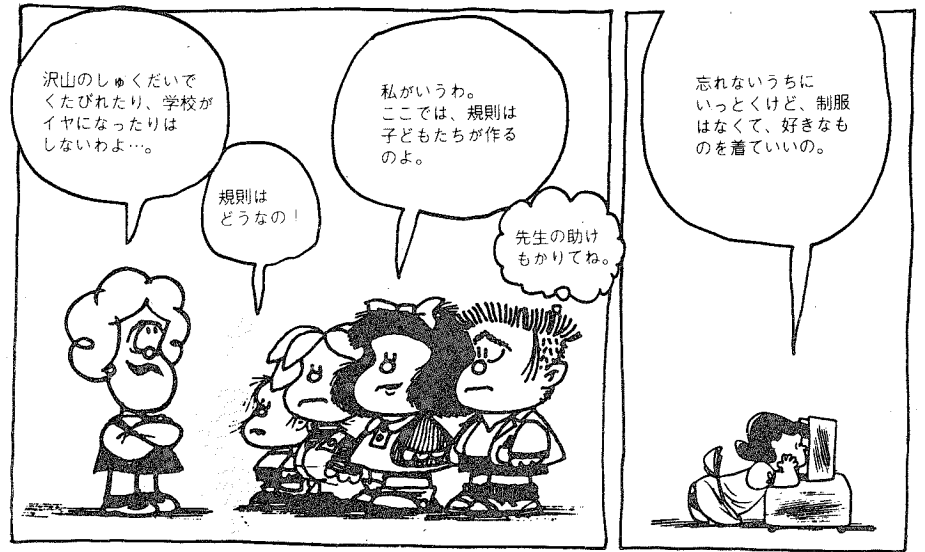


LA ESCUELA ACTIVA
DE CUERNAVACA

(LA ESCUELA DE LA LIBERTAD)



TNC=多国籍企業

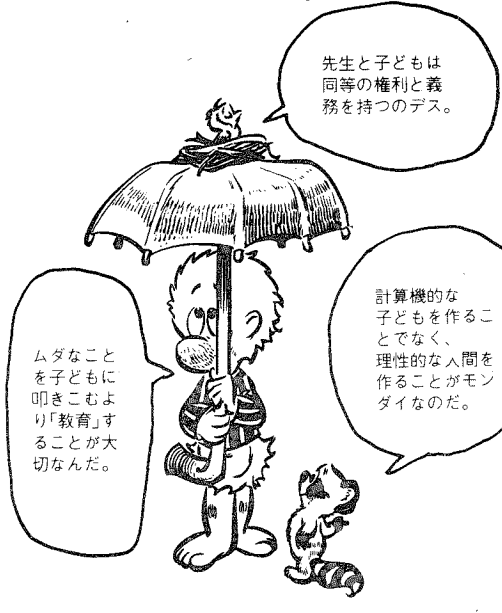


漫画家・リウスの学校

山崎満喜子

エドワルド・リウスは、メヒコでは実力、人気ともにナンバーワンの漫画家といってよい。彼の数多い作品は常に大学生や若い知識人たちの愛読書であり、米国やヨーロッパでも彼の代表作「初心者のためのマルクス」や「資本主義発達史」「レーニン伝」等は続々と翻訳、出版されている。メヒコ国内では最もインテリ層に読まれている週刊誌「Proceso」に自分のページを持ち、軽妙で毒のある、「政治漫画」を連載しているし、彼自身が発行者だった漫画雑誌「アガチャードス」は、当局によって発禁処分にあい廃刊のやむなきにいたったほどの「強者」だったようだ。

彼はまた「メヒコ労働者党」の党員である。メキシコシティの中心街の路上などで、メヒコ労働者党のお兄さんたちが、なにがしかの運動資金を得るためとプロパガンダのためにズラリとリウスの漫画や彼のイラスト入りTシャツを並べて売っていたりする。Tシャツは「ふきだし」いっばいに政府を攻撃するなかなかにあじわい深い Goseira (全然上品ではない、ふつう市民生活の中ではタブーとされている言葉) のオン・パレードだ。「リウスおじさん」の絶対的支持者である私の娘は、メキシコシティの路上でこのシャツを買って着るといって親を絶句させた。このことを翌日、たまたま出遇ったリウスに伝えると、彼はたちまちうれしさをおさえきれない、しかし工合悪そうな笑顔になり「アイ！ マドカ。そいつはちよつとマズイよね」といった。彼の作品そのものは鋭い風刺と絶妙の



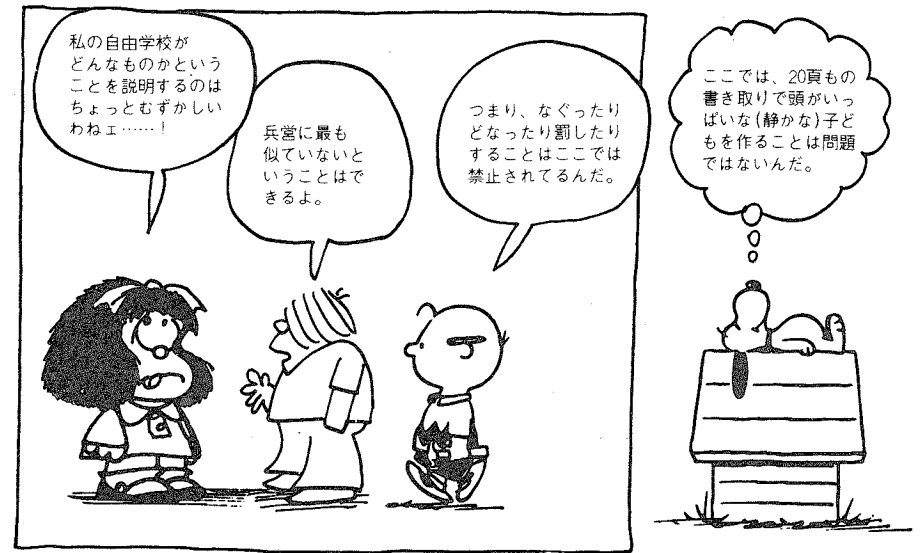
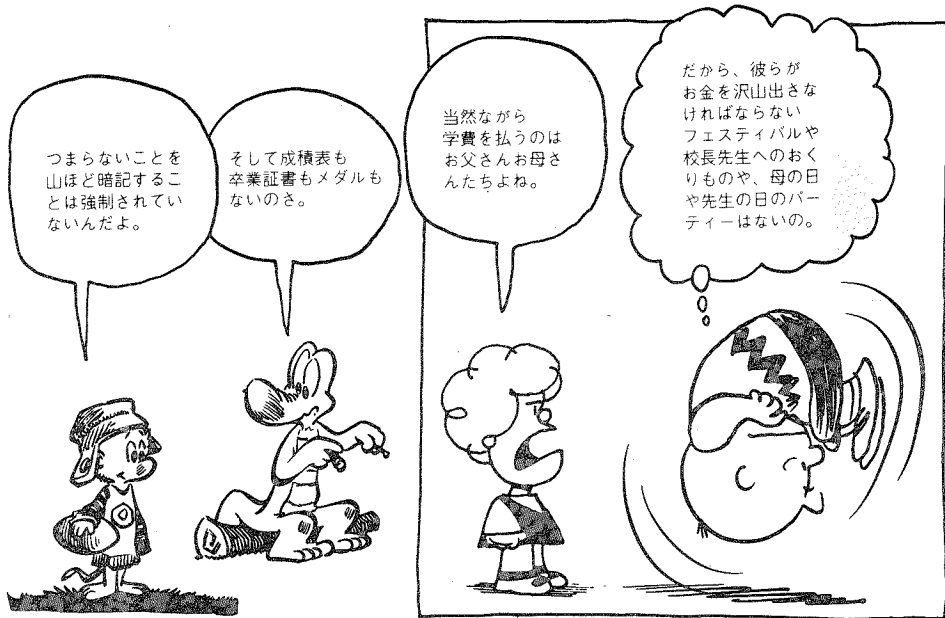
ユーモア感覚につらぬかれていたが、御本人はメキシコ人にはめずらしい、いたって物静かな上品な四十代の紳士だった。

リウスは六八年の政府の大弾圧の際、拘留され刑務所に入っていたことがあり、その時に健康を害してメキシコシティから気候の良いクエルナバカに移ってきた。しかし彼と妻のロシータは、ひとり娘のラケルを入れるべき学校をこの町に見出すことができなかつたようだ。七年前、当時七歳だったラケルのために彼ら夫妻はひとつの学校を作る。幸いロシータは教員資格を持っていた。

クエルナバカ初の自由学校「トラウイカ学園」はこうして生まれた。経営者は、エドワルド・リウス、校長先生はその妻ロシータ。教員数は十名(全員女性)、用務員ひとり、生徒数は幼稚園も含めて六年生まで全部で八十名ほどの、まことに小さなファミリーな学校である。学校の建物自体、中産階級の上クラス程度の家族が住むごく普通の家で(彼はこの家を買うために七八〇万円を銀行に借金したそうだが、一階にガレージを改造した幼稚園のための部屋も含めて五室、二階に四室、広い中庭付きだが、もしも子どもたちのざわめきや歓声がかきこえてこなければ、学校とは気づかずにゆき過ぎてしまうような所だった)。

私の娘まどかは、ここに一九七七年五月から、一九七九年五月まで在学した。入ったときには幼稚園の年長クラスで、別れるときにはほとんどメヒカーナ風のスペイン語を話し、自分は今もメヒコ人になったのだから日本へ帰る必要はないといひ張った。それほどこの学校に根を生やし、皆から愛された。

まどかの最初の先生、マリアエレナは、彼女にまず三つの大切



並んでいる。映画もキューバ映画や、ブニユエルの作品等、町の映画館には間違ってもかからない種類の上映した。一番印象的だったのは、入学したとき、実に細かい子どもの身上調査の末尾に「あなた方両親は、女性解放」についてどういう意見をお持ちですか?という設問があつて、各々パパの意見、ママの意見と別々の項目が並んでいたことだ。メヒコの社会に根を張る「マチスモ」(伝統的男性優位主義)を、教育をとおしてなんとか排除してゆきたいと考える校長先生、ロシータの視点がそこにあつた。

リウスの学校は、何より楽しい、いかにもメヒコ風の学校だつた。おやつを入れた布バッグひとつ肩からぶらさげて、娘は毎日嬉々として家をとび出して行つた。

新年あけの授業開始の日、日本人の律気さで学校にかけつけると、登校したのは彼女ともうひとりだけのクラスメイトだけだつた。残り十三人と、担任の先生までがお休みだったのである。全員がそろつて本格的な授業が始まったのはそれから七日後だつた。子どもたちはポツリポツリとアカブルコ焼けをして学校にあらわれた。

暑い日、わんぱく坊主たちは階段のおどり場に腹這いになって書き取りをしていた。先生はあわてず驚かず「彼らがいかにタフでも長時間あんな格好で字は書けません。まもなく教室にもどつてくるでしょう」といった。

深い信頼に支えられ、大人も子どもも冗談が大好きだつた。クエルナバーカのあの、大家族「トトラウイカ学園」こそは、娘にとつてのメヒコそのものだつた。だから彼女はいまもって「大きくなったら、メヒコへひとり帰る」というのである。

な言葉を教えてくれた。それは、*proponer* (提案する) *criticar* (批判する) *felicitar* (ほめたたえる) という動詞だつた。子どもたちは自分たちの大好きな戸外での授業を実現させるべく、実によく「提案」した。先生はよほどの支障やそのプランに対する独自の見解がない限り、子どもたちの意見を尊重した。玄関ホールの掲示板には三つの項目(提案する、批判する、ほめたたえる)があつて、子どもたちの思い思いの紙片が画鋏でとめてあつた。先生たちはしばしば子どもたちから「ほめられて」いた(むしろ逆のケースもあつた)。子どもの授業に関しては、モンテッソーリ方式をとり、リウスみずから絵画のアトリエを開いていた。彼は子どもたちにまづいろいろな話をきかせて次に絵を描かせた。愉快な話が多かつた。「アアの方舟」の話の後描いた舟の上にかかる大きな虹に、何度も絵の具がにじんでしまい失敗してまどかか手持ちの紙をなくしてしまつた。ペソをかいている彼女にリウスは彼の何かの仕事の残り紙で泳いでいる魚が印刷されている画用紙をくれた。描きあげた絵の岩山の中には水彩絵の具をとおして印刷された魚が透けてみえた。ほら、きみは最初失敗したけれども、そのおかげですごい絵を描いたじゃないか。岩の中に魚が泳いでいるぞ。なんてファンタジックなんだ!」と彼はいつた。

エドワルドとロシータは、子どもの教育だけでなく、「親の教育」を非常に重要に考えており、そのために「両親のための図書室」を持ち、映画会や講演会をよく開いた。当時渡された図書目録をみると、マルクス、サルトル、フランツ・ファノン、レヴィ・ストロウス等々、メヒコの「ふつうの家庭」にはなかなか縁のない著者名が

PRIMARIA Y
JARDIN DE NIÑOS
SEP-17/1946
安科97708



それから重要なこと。ひとりの先生につき、20名の子どもが定員よ！

* 最大でも25名



informes e inscripciones:

COLEGIO TLAHUICA

CUAUHTEMOTZIN 103
(entre MORELOS SUR Y NETZAHUALCOYOTL)
Teléfono 2-43-91 y 2-73-44

- 教育省に登録済みです。
- わずかな費用で済みます。
- 教員資格を持つ先生たちです。
- 学校図書館付き。
- 中心街から遠くありません。
- 創造の自由を尊びます。
- 宗教から独立し実際の教育をしています。
- 体育を正課としています。

●スクールバスあり。



私たちの目標は、子どもの統合的な(すなわち、知的、心理動学的、感情的、教育的諸側面にわたるところの)発達を達成することにあります。
これは、生徒、教員、および両親の間での親愛、善意、理解、および協力という環境の中でなされるものです。

人民の歌を

ちかごろ、私はすこしばかり音楽づいてい
る。音楽にとつてまるで縁なき衆生であった
私がどうしてそういうことになったかという
と、今年の夏に私は郷里へかえつた際、孫た
ちの貧弱なレコード・コレクションのなかか
らマヘリア・ジャクソンのLP盤をみつけた
のがきっかけである。有名なゴスペル歌手と
しての彼女のことを多少は話にきいていたも
の、彼女の歌をきいて私は歌というものが
どれほど人を感動させるものであるかとい
うことをはじめてしつた。

前田俊彦

What is America to me
ではじまり、

The joy, the school, the clubhouse
The million lights I see
But especially the people
That's America to me

でおわる The House I live in という歌。
私はこのおしまいのところをきくたびに涙を
おきえることができな。そして、こういう
歌がどうして日本にないだろうかとおもうこ
と切である。
ネリび、かりに私が、

What is America to me
A name, a map, the flag I see
A certain word, democracy

俺たちにとって日本とは何か
フジヤマか、サクラか、ゲイシャガール
か、
それとも、万世一系の天皇か、
はて、俺たちにとって日本とは何か、

というような歌詞をつくったとしても、私の
ような戦前派の老人にはおもしろいところ
があるかもしれないが、おそらくわかい人た
ちには何ということもないにちがいない。と
いうことになれば、こういう時代にふさわし
い、俺たちにとって日本とは”という歌が、
わかい人たちによってつくられねばならぬの
ではあるまいか。
そして、さらにおもうのは、デモ行進など
で単調なシユプレビコールをくりかえすのみ
では、つよく人の心をうつことがないのでは
ないかということ。道ゆく人びとの心をうご
かし、機動隊員の肺をもつききすような行
進曲が、いまこそ人民によって声たかくうた
われねばならぬ時であるようにおもえてなら
ない。

申し入れ書

三里塚芝山連合空港反対同盟

我々、三里塚芝山連合空港反対同盟は、十五年のながき歳月を、この地に空港をつくらせないとの一念にもえて、戦いつづけてきました。我々の骨身にしみこんだその志は、いかなることがあろうともゆるぐことはありません。我々、生きとし生けるものの命の糧を生み出す農民は、土に生まれ、土にまみれて、働き、いつの日か土にもどるその一生を喜びとし、誇りとして生きています。背ずじが凍るほどの弾圧にさらされながらも、我々の顔によみがえる笑顔は、土に生きることの確かな営為によつています。先祖からひきついで農地、自ら鋤をふるい開墾した農地、その土こそ我々農民の命です。三里塚農民の血に流れるこの魂を、おしつぶそうとは、いかなる理由があつてのことでしょうか。我々は、その理由を、いまだ聞いたことがありません。我々農民をうなづかせることなしに、この農地をつぶすことは、たとえいかなる理由があろうとも、非難されるべきおこないであり、断じて許すわけにはまいません。農民の魂を踏みじり、ただただ金と武力をたのみにして、空港建設を強行したがゆえに、空港は、つねに民衆の敵意にさらされています。空港は、三重のバリエードに守られ、機動隊の暴力に守られて、かうじてその存在を保っているにすぎません。こんな空港にどうして未来があるのでしょうか。

空港をつぶす戦いは、農地を守り、郷土を守る戦いであることは

せよ。

五、沿線住民にすでに不安をあたえ、将来にわたり、危険がともなうパイプライン埋設工事を即刻中止せよ。

なお、一―三に関する、政府の違法な手続きならびに、住民無視の実態を、我々は、次のように判断している。

(1) 適地判断の誤りについて

そもそも「新東京国際空港」を、三里塚の地にもつてきたこと自体が誤りの初まりであることを、我々は、以下の点から考える。

イ、都心から一時間以内というアクセス要件に反している。

ロ、カテゴリーIIの進入方式が必要とされる気象条件の劣悪な位置に決めた。

ハ、二十四時間運行のできない位置に決めた。

ニ、住宅密集地である千葉市の真中をジェット燃料輸送パイプラインを通さざるを得ない位置に決めた。

運輸省は、空港建設にとつて必要不可欠の適地判断を誤り、それによつて、多数の関係住民が被害をこうむつてゐることを認め、その責任を明らかにせよ。その上、航空法に定められた公聴会さえも開催しなかつたのは、はなはだしい住民無視である。

(2) 基本的人権の侵害と法の乱用について

イ、空港施設として、欠かすことのできない航空保安施設用地、およびパイプライン用地に関して、任意買取という形をとつてきたにもかかわらず、空港用地については、収用対象とし、十年以上にわたり、農民を強制収用の強迫下においてきたことは、法の下の平等にもとる差別であり、長い歳月にわたるなま殺し状態は、基本的人権の重大な侵害である。

もとより、民をないがしろにするこの国を、根元からたてなぞす戦いであると、我々は思うにいたしました。

三里塚芝山連合空港反対同盟は、息ながく、しぶとく戦いつづけます。我々の叫びをおしつぶそうとする攻撃が、勢いをませばまずほど、我々は、鍛えられます。三里塚空港反対の戦いは、農民として、人間として、あたりまえの戦いです。

我々は、十五年の憤恨を胸に、政府当局に抗議する。

二期工事はやめろ、空港を廃港にしろ。

まずは、我々にとつてかけがえのない命をかえしてもらいましょう。生活を根こそぎ奪われた小泉よねの命。戦いなかばで倒れた小川明治、戸村一作。ガス弾で射殺された東山薫。戦いのさなかで倒れた新山幸男。空港をこの地にもつてきたものを憎むと抗議の自殺をとげた三の宮文男。その命をかえしてもらいましょう。そして、コンクリートの下で息とだえている豊かな農地を、かえしてもらいましょう。そこから、一切がはじまります。

よつて、以下のことがらを申し入れる。文書をもつて、回答をいただきたい。

一、用地内農民をなま殺し状態にしている土地収用法を直ちに撤廃せよ。

二、一期工事建設過程における、政府の手続上、および行政上の誤りを認め、その責任を明らかにし、二期工事を即時中止せよ。

三、運輸省、空港公団が、成田空港建設に関連して犯した、違法行為、脱法行為をすべて、明らかにせよ。

四、こともあろうに、閣議決定を反古にし「見返り条件」によつて、その責任を回避するが如きジェット燃料暫定貨車輸送の延長を中止

口、特に、一期用地内においては、緊急性があるなどと世間をいつまり、強制収用まで行なわせたのは、法の乱用以外のなにもでもない。

ハ、一期用地取得にあたり、平和の塔や、藤崎恒治宅については、その明け渡し、半年ないし一年もずれ込んだにもかかわらず、小泉よね宅地を含む二筆に関してのみ、緊急裁決を申し立て、たとえ補償金が供託されていても、第二次代執行で叩き出したのは、明らかに小泉よねの生存権を否定したものである。彼女が生活の本拠を守るために、第二次代執行に実力で抵抗したことは、正当であった。

(3) 政府の話し合い路線について

政府は、強行開港以後、二期工事に関しては、話し合い解決という路線を打ち出してきたが、一期工事については、一貫して話し合いの意向すらなかつた。そのことに対する一片の反省もなしに、話し合いなどということを今更もち出してくることは、政府が、手続上からも、運用上からも、一期工事建設が行政権の乱用の所産であつたことを、認めてゐることである。更に、事業認定告示後十年を経て、昭和五十四年十二月をもつて、収用権が消滅しないし、失効し、二期工事については、強制収用できないことを示している。

一九八〇年十月 日

三里塚芝山連合空港反対同盟

委員長代行 石橋政次

運輸大臣 塩川正十郎殿

獄中から

その1

三月一日に春一番が春の訪れを知らしてから、日一日と暖かい陽光と風が冬の名残りを追い散らし、暗く寒い獄房にも一足遅れで春の息吹が訪れ、防寒ズボンとジャンパーという冬の衣裳を、はぎ取ってしまいました。昨日、北向きの陽がまったくあたらない獄房から、南向きの陽のあたる、かつ窓から高いコンクリートの塀越しに刑務所外の林や鉄塔ののぞける見はらしのよい獄房へ転房したので、私は今、春のやわらかい雨がしつとり降る、さわやかな午前ひと時、肌寒い冷気の

中、ひとときわさえわたる野鳥のさえずりに耳を傾けながら、この手紙を認めております。

先日、予感していたとおり母が面会にきてくれました。会う前は非常に気恥しく、バツが悪く感じていましたが、母は元氣そうで今回の件については腹をくくっているようなので、私も安心しました。引越など仲間の温かい救援活動に母なりに心を動かされたようでした。警察の取調べにおいて、取調べ官が一番急所として衝いたのは、親、兄弟への「不孝」という点で、捜査官が両親にあつた際に、母が泣いたと言われたとき、確かにそのことは、私の心を衝くものだったので、母の

面会によって、心が軽くなりました。

夕方のラジオ放送は獄中の憩の時間で、私はこの放送のおかげで以前よりも最近のヒット曲に通じています。娑婆へ出たら、なじみのカラオケスナックで、盃をあおりながら、好きな歌を心ゆくまで歌いたいものです。

だが、獄中生活には、それ独特の良さもあるものです。その第一は、獄外では感じられないこと、考えられないことが、獄中では強く感じられ、はっきり考えることができることです。自然の美しさ、自由のすばらしさに対する感性は、閉じこめられた独房の生活の中で、いやがうえにも鋭敏にときすまされて

いきます。獄中にあつては、どんな人間であろうと豊かな感性をもった詩人になるものだと思います。また、これまでの自分自身の姿、生きざま、自分と他の人々との関係など、忙しい日常の中でゆつくり考えることがなかったことについて、深く掘り下げて考える絶好の場が獄中には与えられています。だから私は獄中生活を通じて、新しい感覚と視点で自分と周囲の世界とを把握したことを貴重な経験として、自分のこれからの生活に生かしていきたいと思っています。

四月一日

昨年の暮れに船橋署から千葉刑に護送された時以来、はじめて車窓から目にする獄外の世界は、なにかももの珍しく、新鮮で、心が浮き浮きして踊るようでした。千葉刑へ護送されてきた時は、私は眼鏡を逮捕時のどきどきで紛失していたので、ド近視の私にとつて、あたり一面がぼんやりした世界で、自分がどのようなところに収容されているのか、見当がつかず、コンクリートの高い塀越しの世界を、そこから聞こえてくる霧笛の音や犬の遠吠え、人声などに耳を澄まして、未知の世界を窺うように、あれこれと想像をめぐら

していましたが、実際に外の世界を見て、自分がどんなところにいたのか知ったときは、

やはり大きな感動を覚えました。私は見知らぬ街を観光バスに乗って、遠足に行く幼稚園児が窓から身を乗り出し、好奇心で目を輝かせて外の世界を見るように、街ゆく人々の姿や、景色を、見逃すまいと凝視し、とりわけ久々に目にする若い女性の姿をくいくいるように眺めました。

地裁へ護送されている間は、このように遠足気分で過ごすことができましたが、裁判所においても、傍聴席に入りきれないほど多くの仲間の支援の中、三人の「被告」弁護士、支援の仲間が三位一体となつて、初公判をわれわれの主導のもとに貫徹できたと思います。ただ残念なのは、私としては、傍聴席にいる大勢の仲間に顔を向けていたかつたのですが、両側を警吏に固められ、見たくもない陰険そうな検事や、偽まんな裁判官の方に顔を向け、傍聴席の仲間に尻を向けるようにしなければならなかつたことです。しかし、形式的には、裁判官に顔を向け、傍聴席の仲間に尻を向けるように強制されていようと、心は顔を仲間に向け、尻を裁判官に向けているのであり、今後の裁判にもそのような気持で、

臨んでいきたいと考えます。

公判が終了し、地裁から護送車が出ようとする時、大勢の仲間が車を取り囲んで止めて車をどんどん叩いて声援してくれましたが私は本当に嬉しく、胸に熱いものがこみあげてきました。警吏がカーテンを閉じて見せまじとしましたが、仲間の顔をちらほら窺うことができました。初公判はたいへん楽しく、かつ力づけられた一日でした。これからの公判日が待ちどおしい今日この頃です。

12・16闘争はこれまでの自分の三里塚闘争への関りの弱さを改め、三里塚闘争を自分自身の闘いとして主体的に扱えかえす強力な契機となつたという点からすれば、私にとつては大きな意義があつたと思います。それは私を生涯、三里塚闘争に固く結びつける契機になるだろうし、私はこの契機を大事にして、発展させていきたいと考えます。

私は、獄内にあつてはじめて知ることができ、また関心をもつことのできる多くの人々の闘いを知ることができました。獄内には、どの房に転房しても必ず、三里塚闘争の戦士が残したスローガンやメッセージがあり、先輩たちの闘いの足跡を偲ぶことができます。差し入れられるいろいろな機関紙や、パンフ、

ピラなどから、今まで知らなかった、またあまり関心を寄せなかった人々の数多くの闘いを知ることができました。それらは、もし私が獄中に入らなければ、きつと今までどおり、たいした関心を寄せずに通りすぎていっただろうと思います。私は、12・16が私にもたらした新たに知った人々の闘いへの連帯、多くの人々との出会いなど、さまざまな契機を生かし、さらに大きく発展させていきたいと思えます。

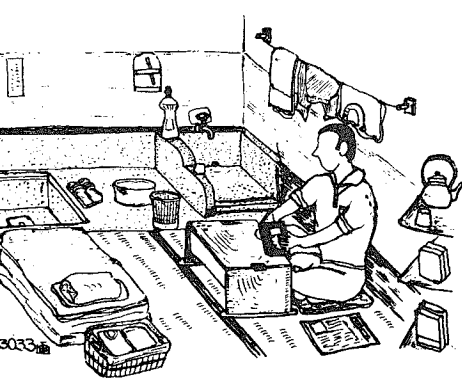
五月十六日

押川慶吾

その2

私は「完黙の闘士」たりえませんでした。もとより自分の行動には一点の非も認めていませんでした。しかしながら、検事は一貫して民間車両が焼けてしまったこと、地域住民が恐怖に陥っていたことを執ように、ついできました。十二月二十九日、取調官の顔ぶれが変わりました。それまでの「さあ吐け、このヤロ」式の相手なら、逆にクソツとがんばれるところがありますが、新しい相手は全く威圧的でなく、逆に非常に苦手をタイプで「まあ

お前も考えがあつてしゃべらないんだろうから、それはそれでいいけどな、車を焼かれた人もな、お前らと同じように真っ黒になつて働いている貧しい人なんだよ。そういう弱い人への思いやりから始めた運動じゃないのか。名前も言わない、そういう人たちに何も言えないなんて、新左翼つてそんなに汚いのか」と迫られた時、不覚にも抵抗の糸がプツンと切れ、一部供述に追い込まれてしまったのです。



張りつめていた糸が切れてしまうと、自分がどんどん解体していくようで、このままでは最後の一线として居る住所・氏名も全てのことでも黙秘でもちこたえることはできないかもしれないと思いました。

そんな絶望の中で迎えた一月五日、弁護士との面会で伝言のメモを見せられた時、電流が体を走るような、言いしれぬ衝撃と感動に襲われたのです。「君は聞いたか？ 彼女の歌うインターを！」——知らなかった。気がつかなかった。まさかノと思った。さらに、母の激励の言葉、職場の仲間ががんばつていくくれることなどを知らされました。親との関係も、職場のことも何もかも敗北主義的にか見られず、権力に魂を売るような供述を

してしまつた己の何という愚かさ、人間を語りながら人間を信じられず、未来を語りながら未来を信じられなかったのです。今こそそんな自分と訣別しよう、本当の人生を歩み出そう、地獄を引きずつて行こうと思つたのなら、人生地獄ばかりでないと知つた今はもっと強く生きられるはずだ。あと取調勾留切れまでの59時間、もう一度死んだ気になつてが

んばつてみよう——こうして、土壇場のところで私は生き返ることができました。悪魔の選択を免れました。私はこの時ほど、仲間つてすばらしいなあと思つたことはありませんでした。

一月二十七日

私は逮捕される以前は政治犯と一般の刑事犯は違うんだと考えていたし、当初は政治犯の誇りみたいなものをもっていました。権力に対する誇りならいいのですが、それが一般刑事犯への優越感であつてはならないと、最近しみじみ感じています。船橋署の留置場での「一般刑事犯」との触れあい、ここでの生活「救援」紙などによって意識が変わつてきたのですが「意識して法を犯した」政治犯たちも「意識することなく法を犯さざるを得なかつた」刑事犯も、どちらもその原因は社会の歪みにあるからです。そしていずれの場合も権力はその原因たる社会の歪みを直す作業は、決してすることなく、法の名のもとに監獄へと送りこむだけで、そこでもまた囚人は国家に労働を搾取され、お涙金の償与金を与えられただけで社会へと放り出される。これではマジメに更生することは至難の業です。

現在の法と監獄は結局、国家ヘタテつくものへの見せしめとしてしか存在しないことに、ようやく気づきました。ですから「悪い子でいるとオマワリさんに連れていかれますよ」という言葉や、前科者、ムシヨ帰りの人間を冷たく見ることや、俺は政治犯だという優越感と権力の意図する差別、分断支配にまんまと乗せられていることです。海援隊の「贈る言葉」の一節に「人は悲しみが多いほど人には優しくできるのだから」というのがあつて、気に入っています。

三月二十日

わたくし十日に三十二歳の誕生日を迎えました。五月十日というのは東山薫さんの命日でもあります。三年前の五月八日機動隊のガス銃水平撃で脳死の状態に陥つた彼は、強じんな生命力で二日間を闘い抜き、ついに還らぬ人となつたのです。五月の薫風を感じること、東山さんを想う今日この頃です。

先日、小松左京のSF「日本アパッチ族」を読みました。権力の弾圧の極限状態の中で鉄を喰ひ、自らを鋼鉄化した日本アパッチ族にはピストルも歯が立たず、手錠も監獄の鉄格子も戦車も喰われて用をなさないので、

ひるがえつて、獄の内外をつらぬく連帯によつて、私たちにもまた、手錠や鉄格子など、まったく取るに足りないガラクタにすぎないということ。権力のいかなる攻撃も、逆に喰らいついて血や肉となし、武器とし、ついに私たちはジュラルミンの盾の壁を喰ひ破り、空港フェンスを喰ひ破り、管制塔を喰ひ倒し必ずや廢港を勝ち取るうではありませんか。

五月十六日

藤田 茂

その3

前略、初めまして、六月より「水牛通信」を送つて頂いている井島です。思いがけぬブレゼントに喜んでます。どうも有難うございました。

昨年5・20の三里塚の集会で、髪を三ッ編みにした大変チャーミングな女の人が、新聞タイプの「水牛」を売つておられるのを見たことがあります。それで、今年の初めに読売新聞で紹介された時に、どんなものか一度よんでみたい、と思つていたところでした。

さて、私がここに入っている理由についてお答えします。私は一九七一年七月仮処分阻止闘争の被告で昨年七月五日に千葉地裁で懲役8年の判決を受け、その余りのデタラメさに——量刑もそうですが、三里塚空港建設の過程には何ら違法はないとする態度——控訴し、ために以後一年以上にわたって勾留されつづけているわけなのです。

11・14の星野君や管制塔の前田君らを含む十五名の控訴審被告団で断乎、三里塚闘争の正義を明らかにして、不当な弾圧を粉砕する為に頑張るつもりです。注目して下さいます。二審は十月頃には始まるだろうと思っております。私たちが被告団のニュースができたので、同封します。せめてものお返しのもりです。

遅くなりましたが、以下は若干の感想です。「人はたがやす 水牛はたがやす 稲は音もなく育つ」大変いい言葉だと思えます。「水牛」というタイトルと合わせて表紙を見ているとそれだけでアジアの農村の風景が浮かんできます。「水牛通信」の第一印象としては「日本とアジアの運動から生まれる様々な表現」の場として、大変ユニークな雑誌だ、ということですが。

ましたが、私はともかく何派でもいい、民衆の手による変革のための文化運動」ならば、どんどん出てきてかまわないんじゃないかと、いささか乱暴な考えをもっています。その意味では「水牛」にはもつと文化運動、あるいは芸術表現に関する記事が増えてもいいのではないかと思います。

もちろん文化とか芸術とかを固定した静的なかたちで考えているわけではありません。それに先述の「印刷」の問題のように、何かを表現する場合の私たちの姿勢そのものから問い返してゆかないと、帝国主義の膨大な物量の前に呑み込まれかねませんから「運動者自身が表現者でもある」という「水牛」の態度は大事だと思えます。

私はとくに何かの表現技術を持っている訳ではないですが、それだけに芸術表現というものに関心をもっています。思想や理論と同じように、いや、あるいはそれ以上に芸術や文化というものは、人間の解放のために重要な役割を果たすものだと思います。極論すれば解放それ自身であるともいえます。

日本人の新しい闘争の展開の経験の中で、徐々にそのことを運動の中から捉えようとしている人たちも出てきていますね。「水牛」

どれも興味深く読んでいますが、表現における方法の問題を取上げている点で「スライドの写し方」……のつかい方「スライドは二流のメディアではない」「印刷は自分の手でやる」等を面白いと思えました（従って印刷技術についての特集、というのを期待しています）。私たちが裁判闘争をつづけてくる過程で、被告団ニュースや各種の資料、また冒頭陳述書、最終弁論、控訴趣意書などを作成するのは随分悩まされてきました。初期の段階ではボールペン原紙十ガリ版、青コピー等を中心として、コピー、ゼロックスを適宜使っていました。最終的には仲間の一人とその友人の印刷会社に勤めている人の手によって完成されたのですが、編集・校正など、できるだけ自分でやりました。それは当時はしんどかつたけれど、今おもうといい経験だったと思えます。そうやって初めて、他の人にもよんでもらえるちゃんとしたモノになったのですから。印刷技術が私たちの運動の表現媒体として非常に重要なこと、それをいかに私たちが手に奪還してゆくか、やはり技術屋さんへのモテレカカリでは駄目ですね。いい企画だったと思えます。

もその一つだと私は考えています。これまでの歴史の中で日本の人民もその問題に直面してきたけれど、現在に生きる我々としては、初めて大衆的に問題にする段階にきたのかもしれない。

高橋悠治さんの父上が戦前の労農運動の中で雑誌を発行しておられたこと、そして今、悠治氏が「水牛」を発行しておられることがいみじくもそれを語っている様な気が私にはあります。

いづれにしても、民衆の手による変革のための文化・芸術運動というものは、最も疎外され抑圧されつづけている人々の中から創出されるべきであると考えています。あるいはそのような人々の生活し、闘争する時空の中で創造されるものだと思います。

そうした作業をすすめてゆく上で何が必要なのか、を「水牛」を参考にしながら考えていきたいと思っています。こういうふうにしてきたのは、読売新聞でよんだ記事の中に田中正造劇、金芝河の詩、フィリピンでの即興劇等のことがのっていたので、私のイメージの中に「水牛」は民衆の芸術表現を主な対象とした雑誌なのだろうという感じが強く残っているからなのです。

それから、一つ一つの記事は非常に良いものを持っていると思えますが、若干コマ切りの感じがします。また、編集者のコメントが少ないせい、全体として迫力に欠けるんじゃないか、という印象も受けました。一つの号全部を一つのテーマに絞って様々な角度から追求するというようなものもいいのではないかと、思います。

今日、人間性の侵蝕、解体しかもたらさない資本主義的文化の圧倒的な氾濫の中で民衆のための文化、それも変革のための文化というものが圧倒的に少ない、と感じています。芸術というものは、文化というものは政治や闘争とは違った形で人々の生きる様を語り、伝え、残してくれたい。それなりに、日本とアジアの解放のために闘う人々と運動の中における表現方法というものは、余りに固定した形のものが多い。既成の観念や感覚にとらわれていて運動の発展と人間性の全面的な解放を自ら阻害しているような印象を受けることがあります。

「水牛」派の文化運動を作ることではない」と（新聞に紹介された発刊の辞の中に）あり

しかし、第5号以降をよむと少なくとも直接的にそれらを目的としているというのではないようですね。民衆が変革にむかう運動の中での表現——伝達という行為の総体を様々な角度から問題にしているのだ、ということなのでしょう。それは非常に大事なことで、失望しているわけではありませんが、ただ前述のようなことを今後も取上げてほしいと個人的には思います。

また、情報誌風になったり、ミニチュア総合雑誌風になったりするのはどうも好みませんので、あくまで個性豊かに斬新な企画・編集を期待します。

何やらまとまらぬことを書いてきました。何か注目していただきます。頑張ってください。それから三ツ編の女性、まだいらつしやるのでしたらよろしく（別に知合いじゃありませんが）。編集委の皆さんの健康を祈って失礼致します。

八月十九日

再見
井島

その4

9月25日に「水牛」四部（5月号、7月号、

8月号、9月号)を、そして翌26日におハガキを戴きました。有難うございます。

事情がありました。今日迄礼状が出せませんでした。何卒お許し下さい。「水牛」はくり返し拝読し、多くの点で深く教えられました。私はかつて、永住する意志で、フィリピンに二年間暮したことがあります。「水牛」に接して、新人民軍に投じたホ口島生れの友人達がなつかしく思い出されました。

代金をお払いできないのが無念です。申しわけございません。もし、できましたら、本年12月迄、郵送して戴ければ、有難く存じます。因みに、私は政治犯ではありません。

二名殺害して、罪名は強盗殺人であります。「水牛」出版の厳しい財政事情を承知しながら愚かな希望、どうか赦して下さい。

札状の遅れ、くり返し、お詫び申し上げます。皆様の御健康と「水牛」の一層の発展を祈ります。

一九八〇年十月一日
草々

S・S

編集後記

本号にのせた反対同盟の申し込れ書は、十月に運輸省にもっていくとちゅう、機動隊のじゃまがはいつてとどけられず、幻の文書になりました。

三里塚労働農舎所代表にして瓢箪亭主人、非権力の根拠地を三里塚の里にゆめみる前田俊彦さんは、いまの歌なき世をなげくことしきりですが、世は歌につれということもありひとつわれらの歌といえるものをつくつてみたらどうでしょうね。

水牛楽団は、十月「バナナ食民地」のために名古屋にあつまり、十一月からは東京でコンサートをします。第一回は十一月十五日、アジアの歌のあと、労働情報編集人樋口篤三さんの「絵とき唄ときバナナ食民地」をやり、第二回は十二月十三日、三里塚の映画「抵抗の大地」と小泉英政さんのよねおばあさんの「なしがあります。場所と時間は両方とも早稲田セミナーハウス「スコットホール」で六時半から。会費は八〇〇円。さそいあわせて、ぜひおいでください。連絡先は東京都杉並区荻窪三―五―八福山方、電話(〇三)三九八―一五七二へ。

購読の御案内

*本誌は書店にはおきません。毎号確実に入手されるためには編集部あて予約購読の申し込みをしてください。発刊と同時に直送します。

*申し込みと送金は郵便振替(口座名 水牛編集委員会、口座番号東京四一九一七九二)または現金書留でお願いします。住所、氏名、電話番号、何号からということを明記してください。

*購読料は送料とも一年分三〇〇〇円、半年分一八〇〇円です。

水牛通信

第二巻第十一号

一九八〇年十一月十日発行

定価 二〇〇円

発行人 堀田正彦

発行所 水牛編集委員会

〒154東京都世田谷区新町2―15―13

八巻方

電話〇三(四二五)九六五八

振替口座東京四一九一七九二

印刷所 ㈱トライプリントショップ